



石垣牛含めた「おきなわ和牛」販促会、ニイチクが最優秀牛購買実施した。今回は2000年のサミットで話題となつた「石垣牛」(写真)6頭が初めて本州に上陸・販売された記念すべき販促会となり、問屋関係者も注目する中で最優秀賞の「おきなわ和牛」はkg2900円で、「石垣牛」の石垣牛賞は2500円で、ともに(株)ニイチクが購買した。販促会でJA沖縄県農業協同組合の長濱哲夫常務が「石垣牛を含めて、おきなわ和牛は、豊富なミネラルを含んだ土壌で育まれた、良質の粗飼料を豊富に与え肥育した和牛であり、農家も愛情を注いで生産しているので今後ともよろしく」と述べ、次いで阿部社長は「アグリス・ワンの開設から4回目を迎えるが、毎年頭数も肉質も向上しておきなわ和牛の認知度は高まっている」とあいさつ。この後、JAの狩俣畜産部次長がおきなわ和牛の生産現状で、3100戸の農家で8万4千頭を飼養しており、肉牛の生産頭数は低いが1千頭強の肥育を目指して増頭したいと説明。

上位入賞牛購買社は次の通り。優秀賞＝(株)西島畜産、(株)ハヤオ▽優良賞＝(株)武屋、JA全農ミートフーズ(株)、マルイミート(株)▽おきなわ和牛賞＝(株)東和食品、杉山畜産。問い合わせは、042-526-3451小峰まで。

### NZ牧草牛コンテスト、ビール煮カレーがグランプリを受賞

ビーフアンドラム ニュージーランド(ジョン・ハンドルビー日本代表)はこのほどニュージーランド牧草牛を使ったレシピコンテストの審査結果を発表。グランプリにはベンネーム「うひひ」さん出品の「牧草牛のビール煮カレー」が受賞した。コンテストは8~9月の2カ月間にわたり“ヘルシー”をテーマにNZ牧草牛のオリジナルレシピを一般消費者から募集したもの。料理研究家の松尾みゆきさんとハンドルビー日本代表が審査を行い、応募総数172品の中からグランプリをはじめ、ニュージーランド賞、フィトネス賞、審査員賞など計11品が選ばれた。グランプリのビール煮カレーは、水を使わずに牧草牛のもも肉をビールだけで煮込むことでやわらかくし、うま味の多い牧草牛とビールやスパイスの相性が抜群のレシピ。ハンドルビー日本代表は「どのレシピも牧草牛の特徴を活かした内容で審査は困難を極めた。オリジナリティあふれる作品が多く、牧草牛を活用したレシピや調理方法のさらなる可能性を改めて実感できた」と話している。受賞レシピはウェブ(<http://www.newzealand-beef.jp/contest/winners>)で公開されている。

J A 沖縄(株)とミートコンパニオン(阿部昌史社長)は23日、ミートコンパニオンングループのアグリス・ワンにおいて「第4回おきなわ和牛販売促進会」(沖縄畜産活性化対策)を、48頭のおきなわ和牛を集めて実施した。今回